



Audi 京都南
京都市伏見区横大路天王前16-5
TEL. 075-604-6636



作りこんだ「音」も楽しむための、価値ある静寂。

中山 少し技術的な話をしますが、タイヤハウスにダクトの穴がありますね。これはノイズを制御するためのものです。この部分はけっこう走るときに空気の乱れが多い場所なので、ここで整流しているんですね。

野村 このドアミラーの3本線もノイズをなくすためのもの。開発に4年かかったそうです。

中山 ドアミラーは運転席に近く、風切音が出やすいので、ここで整流しています。特に高速走行中はここに空気が巻くので、敢えて風をとおして空気を集中させるのです。

野村 こうした技術の積み重ねが、運転中の静かさにつながっています。乗っていただくと皆さん「静かだね」とおっしゃってくださいませ。アウディはさまざまなスイッチやその操作音、操作感に関してもこだわっています。例えば、細かい点です



細部にわたってこだわり、作りこまれたデザインが

上質な車を求める人の五感に、ダイレクトに迫る。

洗練された上質なデザインから目が離せないドイツのプレミアムブランド、アウディ。流麗なプロポーションの4ドアクーペ、「A5 Sportback」を中心に、ご自身もこの車に魅せられているというベテランセールスの野村さん(写真:左)と、アウディの技能コンテストで世界大会優勝を飾った中山さん(右)に、その魅力をうかがいました。



も「裏切らないデザイン」ですね。
中山 実は、車がいちばん人の印象に残るのは、その車に追い抜かれる時なんです。まずバックミラーでヘッドライトのデザインが目に入り、追い抜かれる際にテールライトが見えて、最後に後姿が目に入り、離れていきます。対向車線からくる車を見て、「ああ…」というだけで終わって



「アウディが欲しい」ではない。「この車種が欲しい」と思わせるブランド
野村 車種ごとの序列がはっきりしているブランドが多い中、「アウディ」を買いに行く、ではなく、例えば「A5 Sportback」という車種を指名して買う、という印

が、パワーウィンドの音、ダイヤルの操作音や感触…これらも楽しんでいただける運転環境を目指しています。

中山 音専門のデザイナーがいるんです。警告音もそうなんです。あまり鳴らしすぎても不快でしょう。ドアを閉める音も、高級感と重厚感がでるようにデザインしています。

「いつか、あの車に乗りたい」。そう思わせる後姿。

野村 後ろに回ってみましょう。車の後ろに立ってみてください。ここから見る姿が、「運転中に右車線を追いついて行くアウディ」。後姿

しまうんですが、後ろから追い越されると、人間の心理として「いつか、自分を追い抜いたあの車に乗りたい」と思うものなんです(笑)。

野村 多分、どのブランドもその話はないと思いますよ(笑)。

中山 追い抜かれた側に、より強く印象が残るものなんです。

野村 アウディはどの車種も、この後姿にバックスタイルが見事です。カタログを見ていただいても、見開きでバックスタイルを載せているブランドはおそらく他にはないでしょう。特にこのA5は素晴らしい。例えばこのシヨルターライン。どのブランドでもテールで上向きにしたいものなんです。これも敢えて「下げる」勇氣ですね。これで全体をまとめているデザインはすごいです。



象が強いんですね。「みんなが乗っているから」ではなく、「これが自分にはいちばん良い車だから」乗っていて楽しいから「選んだとおっしゃっていただくことが多いです」。

押し出しが強すぎない、それでいてハイグレードな車に乗りたい。そんなお客さまにアウディを選んていただく。「良い車に乗っているね」と言われるんですよ」というお声を聞くのはうれしいことです。見えにくい細部まで考え尽くされ、人の心をつかまないとはいられないこのデザインも、アウディが選ばれる大きな理由ではないでしょうか。

圧倒的なこだわりから生まれる、アウディにしかできない「かっこよさ」。

野村 「アウディってかっこいいですよ」とよくおっしゃっていただきます。そう、アウディの魅力は何となくもそのデザイン性の素晴らしさ。特にこのA5スポーツバック(以下A5)は、とりわけ僕が好きなお車です。

中山 A5は、アウディ車の中で最も美しいアウディと評されるほど、デザインに優れています。

野村 アウディの販売に携わるようになって6年以上になりますが、平均点で及第点をとれるというよりも、100点の部分も70点の部分もあるというブランドで、そこがまた魅力なんです。何となくも視覚や聴覚など、直接人間の五感に訴えてくるポイントが詰め込まれています。

今トレンドのビッググリルのさきがけも、世界で初めてマトリクスLEDヘッドライトを搭載したのもアウディなんです。アウディのテールライトの光り方、形状は車種ごとに違います。光る場所、部分を変えて、車種ごとの特徴がひとめでわかるようにしています。デザインチームのこだわりは圧倒的ですね。

「勇気あるデザイン」が醸し出す、力強さと繊細なニュアンス。

野村 アウディはドイツ車の中でも「ロー&ワイド」というイメージがあります。このワイド感を作り出す要素のひとつが、ボンネットにある

大きく張り出したプレスライン。4つのラインで、ボディビルダーの背筋のような力強いイメージを出しています。このブランドも盛り上がるのは得意なんです。凹ませるデザイン、これには勇気が要ります。A5がかっこいいのは前から見た「顔」だけではありません。横からも見てみましょう。特に注目していただきたいのが、Aピラーからリアへの流れるようなルーフライン。アウディでは車種問わず、この美しい弧を描くラインにはこだわっています。

中山 僕はデザインももちろん好きなんですけど、個人的には「影」がすごいと思っています。

野村 このボンネットのしかり、ヘッドライトからテールライトへ伸びるシヨルターライン(トルネードライン)しかり。こういうところに凹凸をつけることによってメリハリがつけ、離れて見ると、ここに絶妙な「影」が生まれるんですね。

中山 この陰影の美しさも、ぜひ楽しんでいただきたいです。



京都最大級のモータショー マツシマコレクション2019開催

マツシマホールディングスが取り扱う自動車9ブランド(Mercedes-Benz, smart, BMW, MINI, Audi, Volkswagen, MASERATI, MAZDA, SUZUKI)が勢ぞろいするモーターショーを、2019年11月16日(土)と17日(日)の2日間、京都国際会館イベントホール(京都市左京区)で開催します。今回も展示内容などに工夫を凝らし、遊び心を盛り上げる「アウトドア」と、洗練された都会をイメージした「アーバン」の2つを開催テーマに、より充実したプログラムを展開していきます。

クルマの展示以外にも、マツシマホールディングスグループが手掛ける多方面の事業のなかから、飲食店代表としてイタリアン「リストランテ.v.b」とカフェ「S」の店舗、伝統工芸を軸に商品開発を行うブランド「KIWAKOTO」の展示、そして「ティクフィジカルコンディショニングジム」によるイベントなど、さまざまな企画で幅広い年代の来場者に、マツシマが提供するクルマとライフスタイルの楽しさを伝えます。